

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月13日

【四半期会計期間】 第91期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 本州化学工業株式会社

【英訳名】 Honshu Chemical Industry Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 福山 裕二

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋三丁目3番9号
(2019年9月9日から本店所在地 東京都中央区京橋一丁目1番1号が上記のよう
に移転しております。)

【電話番号】 03(3272)1481(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 和田 和興

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋三丁目3番9号

【電話番号】 03(3272)1481(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 和田 和興

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第90期 第2四半期 連結累計期間	第91期 第2四半期 連結累計期間	第90期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(百万円)	9,847	9,421	20,798
経常利益	(百万円)	1,711	950	3,047
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,021	427	1,751
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,318	374	1,919
純資産額	(百万円)	20,232	20,324	20,430
総資産額	(百万円)	28,011	28,347	28,745
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	89.01	37.25	152.65
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	63.8	64.6	63.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,354	3,121	1,435
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	391	860	985
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	796	517	1,219
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	8,082	8,863	7,138

回次		第90期 第2四半期 連結会計期間	第91期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	23.47	0.84

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものです。

財政状態及び経営成績の状況

当社グループの売上高は9,421百万円と前年同四半期に比べ426百万円(4.3%)の減収、営業利益は980百万円と前年同四半期に比べ741百万円(43.1%)の減益、経常利益は950百万円と前年同四半期に比べ760百万円(44.4%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は427百万円と前年同四半期に比べ593百万円(58.1%)の減益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<化学品>

化学品セグメントの売上高は、4,243百万円と前年同四半期に比べ166百万円(3.8%)の減収、総売上高に占める割合は45.0%(前年同四半期比0.2ポイント増)となり、セグメント利益は213百万円と前年同四半期に比べ326百万円(60.4%)の減益となりました。

<機能材料>

機能材料セグメントの売上高は、2,262百万円と前年同四半期に比べ129百万円(6.1%)の増収、総売上高に占める割合は24.0%(前年同四半期比2.3ポイント増)となり、セグメント利益は350百万円と前年同四半期に比べ122百万円(25.9%)の減益となりました。

<工業材料>

工業材料セグメントの売上高は、2,698百万円と前年同四半期に比べ381百万円(12.4%)の減収、総売上高に占める割合は28.6%(前年同四半期比2.7ポイント減)となり、セグメント利益は778百万円と前年同四半期に比べ228百万円(22.7%)の減益となりました。

<その他>

販売用役等のその他セグメントの売上高は216百万円と前年同四半期に比べ7百万円(3.2%)の減収、総売上高に占める割合は2.3%(前年同四半期比0.0ポイント増)となり、セグメント利益は18百万円と前年同四半期に比べ0百万円(4.7%)の減益となりました。

総資産は28,347百万円となり、前年度末に比べ398百万円減少しました。これは流動資産が、現金及び預金の増加(1,725百万円)、商品及び製品の増加(417百万円)、売掛金の減少(1,910百万円)等により、前年度末に比べ207百万円増加し、18,597百万円となったこと、また固定資産が、機械装置及び運搬具の減少(427百万円)、投資その他の資産の減少(141百万円)等により、前年度末に比べ606百万円減少し、9,749百万円となったことによります。

負債は8,022百万円となり、前年度末に比べ293百万円減少しました。これは流動負債が、買掛金の増加(143百万円)、設備関係未払金の減少(529百万円)等により、前年度末に比べ318百万円減少し、5,114百万円となったこと、また固定負債が前年度末に比べ25百万円増加し、2,908百万円となったことによります。

純資産は、20,324百万円となり、前年度末と比べ105百万円減少しました。これは非支配株主持分の減少(162百万円)等によります。

この結果、自己資本比率は64.6%と前年度末に比べ1.1ポイントの上昇となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は8,863百万円と前連結会計年度末に比べ1,725百万円(24.2%)の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期に比べ1,766百万円(130.4%)増加し、3,121百万円の収入となりました。これは主に運転資金が減少したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期に比べ469百万円(119.9%)増加し、860百万円の支出となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が増加したこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期に比べ279百万円(35.0%)減少し、517百万円の支出となりました。これは主に長期借入金の返済による支出が減少したこと等によるものであります。

事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、406百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、原材料等の製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資、修繕等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としており、運転資金は自己資金を基本としております。

なお、当第2四半期連結累計期間の末日における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は1,723百万円となっており、また現金及び現金同等物の残高は8,863百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(全般)

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、通商問題の影響や海外経済の不確実性等のリスクがさらに増加したことにより、輸出や生産の弱さが継続し、景気に足踏み感が見られました。

当社グループを取り巻く事業環境は、自動車市場や情報関連財市場では成長の減速並びにサプライチェーンにおける在庫調整が継続し、特に電子材料の事業が大きく影響を受けました。今期は販売が下期に偏っている販売計画であることに加え、為替変動の影響もありました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における経営成績は、前年同四半期に比べ減収減益となりました。

(セグメント別)

セグメントごとの経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりです。

<化学品>

ピフェノールは、パソコン、スマートフォンやデジタル家電等の情報通信機器の電子部品に用いられる液晶ポリマー(LCP)の原料や医療分野等で使用されるポリフェニルスルホン(PPSU)の原料として使用されております。当第2四半期連結累計期間においては、国内・輸出ともに在庫調整が行われた結果、販売量が減少したことに加え、円高の影響により売上高は前年同四半期を下回りました。

クレゾール誘導品は、家畜用飼料の添加剤に使用されるビタミンEの原料や電子材料及び酸化防止剤等の原料として使用されております。当第2四半期連結累計期間においては、ビタミンE原料・酸化防止剤共に需要が堅調であったことに加え、市況の上昇により、円高にも拘わらず売上高は前年より増加しました。

この結果、原燃料価格の上昇もあり、化学品セグメントは売上高、利益ともに前年同四半期を下回りました。

<機能材料>

当社の電子材料は、半導体及びフラットパネルディスプレイ(液晶・有機ELディスプレイ)等の製造過程で使用されております。なお、当社製品群及び川下製品の大半は、対韓貿易管理強化の対象品目には該当いたしません。当第2四半期連結累計期間においては、半導体・フラットパネルディスプレイ関連川下製品の在庫調整が継続し、期後半において若干の回復傾向が見られたものの、全体として売上高は前年同四半期を下回りました。

特殊ビスフェノールを原料とした樹脂は、耐熱性、光学特性に優れているため、特殊ポリカーボネート樹脂(自動車用部品、光学・電子部品用途向け)や特殊エポキシ樹脂(半導体封止材、積層板用途向け)の原料として使用されております。当第2四半期連結累計期間においては、光学レンズ・成形材の主要分野で需要が堅調に推移したため、売上高は前年同四半期を上回りました。

この結果、機能材料セグメントは売上高は前年同四半期を上回りましたが、売上構成の影響で利益は前年同四半期を下回りました。

<工業材料>

自動車部品用途向けの特殊ポリカーボネート樹脂の原料に使用される特殊ビスフェノールは、主に海外生産拠点のハイビス社において製造販売しております。当第2四半期連結累計期間においては、自動車市場全般の落ち込み、サプライチェーンにおける在庫調整に加え為替変動の影響を受け、売上高は前年同四半期を下回りました。

受託品の売上高はほぼ前年同四半期並みとなりました。

この結果、工業材料セグメントは売上高、利益ともに前年同四半期を下回りました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,500,000	11,500,000	(株)東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株でありま す。
計	11,500,000	11,500,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		11,500,000		1,500		1,013

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三井物産株式会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1-1-3 (東京都中央区晴海1-8-12)	3,098	26.99
三井化学株式会社	東京都港区東新橋1-5-2	3,098	26.99
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UF J銀行)	245 SUMMER ST BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2-7-1)	754	6.57
種田 修	東京都文京区	329	2.86
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	278	2.42
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱UF J銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET ST LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2-7-1)	262	2.28
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	256	2.23
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 (常任代理人 株式会社みずほ銀 行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON, MA 02101 U.S.A. (東京都港区港南2-15-1)	200	1.74
学校法人 田中育英会	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-30-16	141	1.22
大和産業株式会社	和歌山県和歌山市小雑賀48	124	1.08
計		8,541	74.42

(注) 上記の所有株式数の信託業務に係る株式は、次のとおりです。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	278千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	256千株

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 23,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,467,200	114,672	
単元未満株式	普通株式 9,700		
発行済株式総数	11,500,000		
総株主の議決権		114,672	

(注)「単元未満株式」の欄には、自己保有株式が次のとおり含まれています。

本州化学工業株式会社 6株

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
本州化学工業株式会社	東京都中央区日本橋 3 - 3 - 9	23,100		23,100	0.20
計		23,100		23,100	0.20

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,138	8,863
売掛金	6,092	4,182
商品及び製品	3,363	3,780
仕掛品	311	336
原材料及び貯蔵品	1,234	1,256
その他	250	178
流動資産合計	18,389	18,597
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	6,470	6,042
その他(純額)	2,911	2,882
有形固定資産合計	9,381	8,925
無形固定資産	50	41
投資その他の資産	924	782
固定資産合計	10,356	9,749
資産合計	28,745	28,347
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,066	2,209
短期借入金	1,000	1,000
未払法人税等	371	293
役員賞与引当金	32	19
設備関係未払金	898	369
その他	1,063	1,222
流動負債合計	5,433	5,114
固定負債		
退職給付に係る負債	2,074	2,101
その他	808	806
固定負債合計	2,882	2,908
負債合計	8,315	8,022

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500	1,500
資本剰余金	1,013	1,013
利益剰余金	15,748	15,969
自己株式	14	14
株主資本合計	18,247	18,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	45	-
為替換算調整勘定	10	119
退職給付に係る調整累計額	46	35
その他の包括利益累計額合計	8	155
非支配株主持分	2,174	2,011
純資産合計	20,430	20,324
負債純資産合計	28,745	28,347

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	9,847	9,421
売上原価	7,097	7,329
売上総利益	2,749	2,092
販売費及び一般管理費	1,026	1,111
営業利益	1,722	980
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	13	3
投資有価証券売却益	-	36
その他	2	3
営業外収益合計	16	43
営業外費用		
支払利息	19	18
撤去費用	2	36
その他	4	17
営業外費用合計	27	72
経常利益	1,711	950
税金等調整前四半期純利益	1,711	950
法人税等	446	306
四半期純利益	1,264	644
非支配株主に帰属する四半期純利益	243	217
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,021	427

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	1,264	644
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	45
為替換算調整勘定	48	236
退職給付に係る調整額	10	11
その他の包括利益合計	53	270
四半期包括利益	1,318	374
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,052	263
非支配株主に係る四半期包括利益	265	110

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,711	950
減価償却費	715	741
受取利息及び受取配当金	13	3
支払利息	19	18
売上債権の増減額(は増加)	554	1,877
たな卸資産の増減額(は増加)	889	473
仕入債務の増減額(は減少)	268	149
投資有価証券売却損益(は益)	-	36
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	30	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	33	27
その他	172	262
小計	2,004	3,514
利息及び配当金の受取額	13	3
利息の支払額	20	18
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	642	377
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,354	3,121
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	364	1,003
投資有価証券の売却による収入	-	144
その他	26	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	391	860
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	264	-
配当金の支払額	206	205
非支配株主への配当金の支払額	289	273
リース債務の返済による支出	37	38
財務活動によるキャッシュ・フロー	796	517
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	17
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	163	1,725
現金及び現金同等物の期首残高	7,918	7,138
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,082	8,863

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
運賃保管料	81百万円	87百万円
給与手当	229	255
退職給付費用	5	9
役員賞与引当金繰入額	14	19
役員退職慰労引当金繰入額	4	-
研究開発費	368	406

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	8,082百万円	8,863百万円
現金及び現金同等物	8,082	8,863

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	206百万円	18.00円	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月6日 取締役会	普通株式	114百万円	10.00円	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	206百万円	18.00円	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月8日 取締役会	普通株式	137百万円	12.00円	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品	機能材料	工業材料	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,409	2,133	3,080	9,623	223	9,847	-	9,847
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	4,409	2,133	3,080	9,623	223	9,847	-	9,847
セグメント利益	540	473	1,006	2,019	19	2,039	316	1,722

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、販売用役等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 316百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 316百万円が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品	機能材料	工業材料	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,243	2,262	2,698	9,204	216	9,421	-	9,421
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	4,243	2,262	2,698	9,204	216	9,421	-	9,421
セグメント利益	213	350	778	1,343	18	1,361	380	980

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、販売用役等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 380百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 380百万円が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	89円01銭	37円25銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,021	427
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,021	427
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,476	11,476

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

2019年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額..... 137百万円

(ロ) 1株当たりの金額..... 12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月2日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月13日

本州化学工業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 伸 啓 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 垂 井 健 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている本州化学工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、本州化学工業株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。